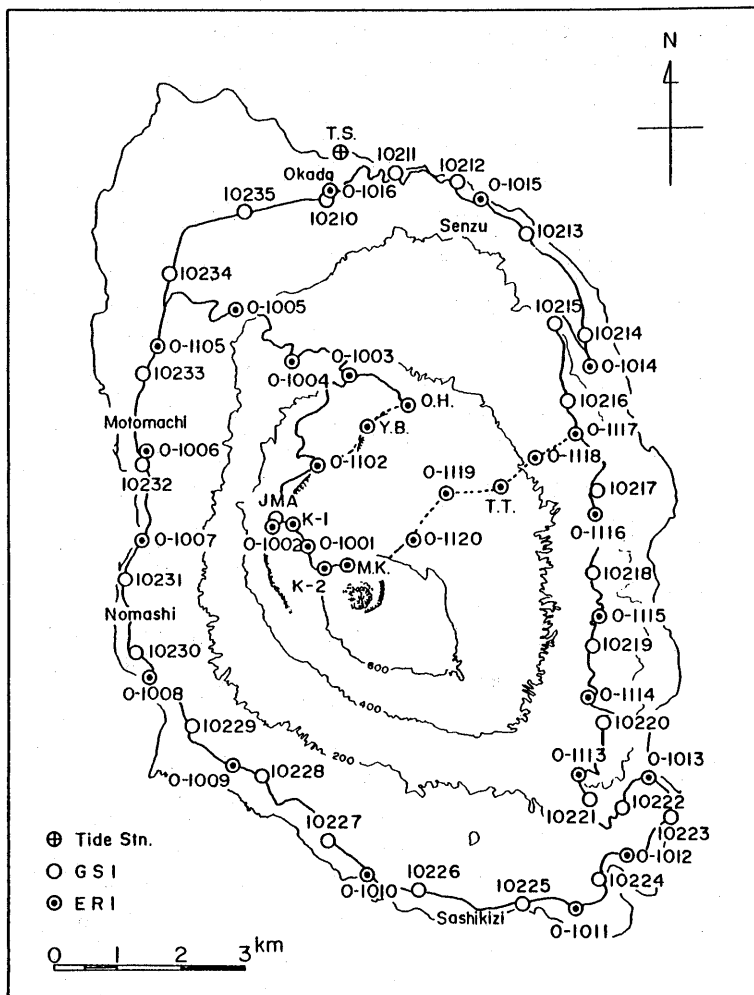


伊豆大島三原山火山の上下変動*

東京大学地震研究所

第1図に伊豆大島に設置されている水準測量用ベンチマーク（一部は辺長測量と共用）の位置を示してある。大島を一周する路線に関しては、1979年2～3月より1982年10～11月の間に計4回の水準測量が国土地理院によって実施され、その解析結果は既に本会報に報告されている。^{1), 2)}



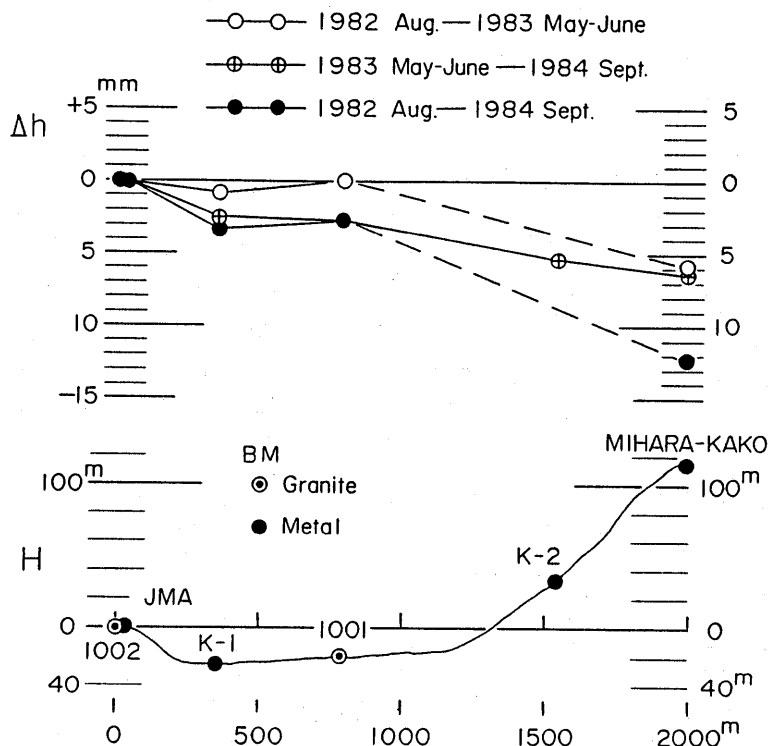
第1図 伊豆大島における水準点分布

Fig.1 Distribution of bench Marks in the Izu-Oshima volcano.

* Received Jan. 16, 1985

三原山山体部の測量路線は、東京大学地震研究所が設置し測量をおこなっているもので、過去の測量結果より得られた山体変動については本会報にも報告してある³⁾。これらの路線のうち、三原山外輪山鏡端（カルデラ縁）より内輪山火口縁（カルデラ内）にいたる区間について、1982年8月より3回の測量を実施した。それらの測量によって得られた結果を第2図に示した。同図上段は外輪山鏡端のベンチマーク0-1002およびJMAを不動とし、カルデラ内のベンチマークの変動を示したものである。下段は測量路線に沿った高度断面を示している。変動図に明らかなようにカルデラ内ベンチマークは沈降の傾向を示している。1982年8月より1984年9月にいたる2年間に、内輪山火口縁ベンチマークMHは12~3mm沈降している。

この期間大島三原山火山は、表面上1974年以來の静穏状態を持続している。今回の測量結果によっても1984年9月の段階では、活動の徴候（火山内部圧力増加）は認め難いといえる。



第2図 伊豆大島カルデラ内水準点の上下変動（上段）および水準路線高度断面（下段）

Fig.2 Vertical Movements of bench marks inside of the Izu-Oshima caldera (above) and profile along the levelling route (below)

参 考 文 献

- 1) 国土地理院地殻調査部(1982) : 大島・三宅島の上下変動, 噴火予知連絡会会報, **24**, 33-34.
- 2) 国土地理院地殻調査部(1983) : 大島・三宅島の上下変動, 噴火予知連絡会会報, **27**, 23-24.
- 3) 東京大学地震研究所(1974) : 伊豆大島における地殻変動測定, 噴火予知連絡会会報, **1**, 21-26.